

◎左の詩文を自運（自分の創意により制作）にて仕上げ提出して下さい。

・ 大きさ：条幅（縦書き）

・ 書体：行草体

〔詩文〕

○作者 杜甫

○題 絶句三首 其三

○本文

漫道春來好	漫りに道う	春來たりて好しと
狂風大放顛	狂風は	ただ放顛なり
吹花隨水去	花を吹いて	水に随つて去らしめ
翻却釣魚船	翻却す	釣魚の船

〔語句〕

○春來好 其一（前々回の詩文）の「春船正好行」（春は船旅に絶好の季節）のこと。

○大 「太」の誤り。

○放顛 自由奔放で、きちがいじみている。

○翻却 ひるがえす。却は助字。

〔意味〕

無責任なことを言ったものだ、「春が来て船旅に絶好の季節になった」とは。荒れ狂う風はやりたい放題であった。花を吹き散らして、花びらは水の流れに従って去ってゆき、私の釣り船もひっくり返ってしまった。

〔参考〕

条幅作品の作り方の一般的な方法を述べてみますと、まず初めに、句の意味や流れに従って何字も連綿するところが多い。また、墨の濃さは、濃くしたり、淡くしたり、紙は滲みの強い紙を選んで書くと良い。運筆の速度は自由であるが、詩句から受ける情感により、速さ、太さ、強さを捉えるのが良い。

要は、流動のリズムに合わせ、時に速く、遅くと自然の運筆でやりましょう。墨継ぎ、強弱もそこから捉えるが良い。

また、二行目の先頭では墨継ぎをしないこと。文字の大きさは、大小の組み合わせをし、全部同じ大きさにしないことが重要であります。

同人位 検定課題  
師範位半紙臨書部検定課題

(二十五日×切) 作品には必ず支部名・会員番号・姓号を鉛筆で、作品の左下隅に記入して下さい。

# 古典の研究

今月の同人の課題は、王羲之の興福寺断碑です。興福寺断碑は、唐の興福寺の僧・大雅が、王羲之の行書を集字して、開元九年（七二二年）に刻した。碑は上半分を失って七〇〇余字を残しているため、半截碑ともいう。明の万暦年間に長安城内の草中より出土した。『集字聖教序』に次いで羲之の行書の典型とされ、それと比較してみると聖教序より書風も温健で、配字も自然である。また、集字によりおこる文字の大小、肥瘦、偏と旁のバランスの極度な不釣合はみられない。任意の箇所を選び、条幅二十字二行に仕上げ提出して下さい。

《王羲之（興福寺断碑）》

〔釈文〕 不可奪。保元勳。而若無有。則□□皇上欽腹心之寄也。公平均七政。恭踐

